



東京地区生コンクリート協同組合
〒103-0027東京都中央区日本橋3丁目2番5号
電話番号 (03) 3271-2181
URL:https://www.t-namakyō.jp/
発行責任者 高村 尚

＝協組の動き＝

(6月)

10日(月) 理事会(No. 1218)

24日(月) 理事会(No. 1219)

(7月)

8日(月) 理事会(No. 1220)

22日(月) 理事会(No. 1221)

(8月)

10(土)～18(日) 東京協組夏季休暇

26日(月) 理事会(No. 1222)



第48回 通常総会を開催

第48回通常総会が5月20日に都内ホテルの会議室にて開催されました。

青木理事長が冒頭の挨拶の中で、以下のとおり2023年度の取り組みと2024年度の重点課題について説明し、組合員各社への協力を要請しました。

2023年度の取り組みの中では、2,000円/㎡の値上げを確実に行うことができ、銀行借入を行うことで損益対策を実施しました。出荷ベースの契約については50%程度ご理解いただいていると思います。また販売店様の努力によりH、J契約番号を主とする旧契約についてもある程度の値上げを成し遂げました。本当に皆さまに支えられている東京協組ではありますが、まだまだこれらの課題は続きます。より一層一致団結していくことでこの嵐を乗り越えていけるものと思います。

2024年度は①出荷ベースにおける定価22,000円/㎡の達成 ②日本一の品質での安定供給 ③残コン・戻りコンの削減並びに出荷キャンセルの削減 ④来年度施行に向けた完全週休二日制並びにスライド改定、これら4つの政策を実施して参ります。

これらの取り組みは生コン産業の持続可能な発展のためにやり遂げなければならない課題とし、皆さまと一丸となって達成させていきたいと思っておりますので、引き続きのご指導・ご協力をよろしく願います。

その後、議事に移り、議長には常任理事の



酒井議長

酒井 勝弘氏が選任され、まず2023年度の事業報告並びに決算関係書類、2024年度の実業計画並びに収支予算など第1号～第6号議案まで計6件の議案が審議され、全件原案通り承認されました。

次に、2名の理事辞任により、第7号議案として補充選任の件が審議されました。指名推選方式により選考委員が2名の理事候補を推薦し、総会にて承認されました。

【総会付議議案】

第1号議案

2023年度事業報告書並びに決算関係書類承認の件

第2号議案

2024年度事業計画並びに収支予算決定の件

第3号議案

2024年度経費の賦課金並びに徴収方法決定の件

第4号議案

2024年度受注量割賦課金・特別受注量割賦課金に対する最高限度額決定の件

第5号議案

役員報酬最高限度額決定の件

第6号議案

借入金残高の最高限度額決定の件

第7号議案

理事2名辞任に伴う補充選任の件

【理事交代】(敬称略)

(辞任) 松原 浩明 神奈川秩父レミコン(株)

鈴木 孝行 三多摩アサコンクリート(株)

(就任) 森 秀樹 神奈川秩父レミコン(株)

本宮 秀明 三多摩アサコンクリート(株)

バラに魅せられて

要 秀和

冬の時期、枯れ木同然だった茶色い枝から芽を出し始める。それが美しい葉っぱとなって広がっていく。その力強さがまず始めのバラの魅力です。植え付けは真冬に行いますが寒ければ寒いほどしっかりと準備を整えてくれます。春の気温が高いから早く咲くのではなく、いかに早い時期に低温になるかがポイントです。したがって暖冬の年は咲く時期も咲き方も今一な気がします。

そもそもバラにハマったきっかけは20年ほど前、自宅で息子と一緒に造った花壇にミニバラを植えたことです。その後小さな庭のスペースを見つけてはバラを植えまくりました。大小合わせて50株ほどにはなったでしょうか。我ながら圧巻のバラ園でした。しかし初期はモダンローズが主で、そのほとんどが病気に弱く、また虫の餌食となって対策に辟易していました。その反省もあり今はオールドローズがメインです。原種に近いこの種は病気に強くまた虫を寄せ付けず自然の力を持つ花です。

オールドローズはバラ科の代表であ

る桜と同様春の1季咲きが多いですが、香り豊かで色鮮やかなその花は人を魅了します。特に私のお気に入りには最も美しい白薔薇と言われているマダムアルディ、透き通るようなソフトピンクのファンタンラトゥール、真っ赤なチャイナローズのツーヤンフェウ、四季咲性でオールドローズの魅力をもつイングリッシュローズのエイブラハムダービー、同じくつる性のコンスタンス・スプラインなど樹齢20年になるものもありますが毎年期待通りの花を咲かせてくれます。



昨年砂町工場の花壇に殿堂入りしたアイスバーグと有名なガーデンデザイナーの名前に由来す

るガートルード・ジェキルを植えました。2年目にもかかわらず今たくさん花を咲かせてくれています。多花性の白薔薇とピンクのバラのコントラストが気に入っていますが、工場の皆さんの手入れのおかげと感謝しています。この時期ならではの楽しみです。

(東京コンクリート(株) 代表取締役)

2023年度 営業・技術概況報告紹介

通常総会議事終了後に2023年度の営業概況及び技術概況報告を以下のとおり行いました。

【営業報告】(報告者:要営業委員長)

2023年度の活動については、理事長方針である4つの課題、①新たな販売方式による適正価格の獲得、②安定供給の確保、③戻りコン・残コン・出荷キャンセルの削減、④完全週休2日制への取り組み準備に則り、ユーザーとの相互理解の形成、登録販売店との信頼関係の構築、組合員の団結強化を基本方針として活動を展開して参りました。

1. 販売形態と債権保全について

2001年10月に開始した登録販売店制度による販売形態と現金取引は22年になるが、2023年度も順調に売上代金を回収している。

(1)登録販売店数

毎年度の契約更新にあたり、全登録販売店との意見交換を実施

し、2024年4月1日付けで29社と契約を更新した。

(2)2023年度末債権保全状況(2024年3月末)

債権額48億2百万円に対し、銀行保証と相殺契約を合わせた保証額は68億69百万円となっており、債権保全率は143%と十分な水準を確保している。

2. 販売数量等について

(1)2023年度出荷実績

出荷量は全国ベースで7,018万㎡(前年比94.3%)となり、過去最低を更新した。当協組は、建設現場における技能者不足等により本格出荷には至らず、前年比99.1%となる274万㎡に止まった。

(2)2023年度末(2024年3月末)契約残

2023年度末契約残は、前年比69.4%となる355万㎡となった。契約形態の見直しにより分割発注が増えている為、契約残数量は減少傾向に在る。

(3)2024年度の出荷数量予想

2024年度の全国需要は、前年比99.0%の6,950万㎡を想定してい

る。当協組は、大型再開発工事等の進捗状況を踏まえ、300万㎡(上期150万㎡・下期150万㎡)を計画している。

3. 価格について

(1)積算関係

建設物価及び経済両調査会を月1回以上の頻度で往訪し、表示価格の改定を要請した結果、以下のとおり早期に価格反映された。

	改定時期	改定内容
建設物価	2022年7月	14,800円⇒15,000円
	2022年11月	15,000円⇒17,800円
	2023年9月	17,800円⇒19,800円
積算資料	2022年7月	14,700円⇒14,900円
	2022年12月	14,900円⇒17,900円
	2023年10月	17,900円⇒19,600円

※ 2024年6月号にて建設物価20,800円、積算資料20,600円に各々上伸

(2)広報活動

日本経済新聞並びに業界各紙、両調査会に対し必要の都度、記者懇談会を開催し、当協組の現状及び取り組み事項について説明した。

(3)販売価格

2022年4月1日からL契約番号として「解約基準の見直し」及び「原案会議における受付基準の運用厳格化」を実施した。また、2022年6月1日からのP契約番号として3,000円/m³の値上げに注力し、ほぼ満額を確保している。更に2023年4月1日からのR契約番号として2,000円/m³の値上げに注力し、ほぼ満額を確保している。

4. 2023年度の営業関係の状況及び次年度の課題**(1)販売価格の確保**

2023年4月からの生コン価格2,000円/m³の値上げ等については、組合員アンケートにより生産コストの実態把握に努めた。また、原材料費・運搬費等の急激且つ恒常的な上昇に対応する為、契約形態の見直しを行い、「契約ベース」から「出荷ベース」での「1ヶ年間毎の有効期間契約」に変更している。

以降、骨材価格や産業廃棄物処理費等の高騰が経営を圧迫していることから、再度組合員アンケートを実施の上で2024年4月1日から1,000円/m³の値上げ実施を決定、併せて契約形態変更の定着を図っている。

(2)組合員の経営維持

2023年度は急激な原材料のコストアップ負担先行による組合員各社の経営圧迫の緩和措置として、銀行借入による仕入れ価格増額補填を実施している。

(3)ゼネコンとの相互理解、商流との連携強化

ゼネコンとの相互理解を深める為、日本建設業連合会資材対策委員会、関東資材研究会との意見交換を定期的実施した。

また、登録販売店と様々な会議を通じて、関係活性化及び課題解決の為にベクトル合わせを実施している。

(4)2024年度の課題

2024年度は、契約形態の見直しの定着を図る為、販売店がゼネコンと契約する際、契約方式を明確にして頂く為の合意書等の提出をお願いすることとしている。また、4月1日実施の1,000円/m³の値上げの早期満額獲得に向け精力的に取り組んでいく。併せて、残コン・戻りコンの削減、更には出荷キャンセル、納入予定直前変更の減少を踏まえた安定供給の確保等、販売店との意思疎通を十分に図り現状を共有し、ゼネコンからの理解・協力が得られるように努めることとする。

【技術報告】(報告者:一ツ木技術委員長)**1. 2023年度の主な活動****(1)圧縮強度試験の遠隔臨場**

2022年4月1日より正式スタートし、2023年度は1年間で5現場、5件実施された。

(2)単位水量推定試験への対応について

第三者試験機関や混和剤協会関東ブロックにビデオでPR実施した。

(3)2023年度品質チェックシステム

技術委員会での決定に従い、2023年度品質チェックシステムを実施

【検査内容】

1)骨材の現物確認

2)事務局による使用骨材産地・石質照合

3)判定会議による検査結果の判定

【判定結果】

全工場が「整合」の結果判定

(4)組合員報告書の実施

苦情・トラブルの再発防止、技術情報の共有化。

総報告件数:2件(内、苦情情報1件、トラブル1件)

(5)各種講習会参加

JCI年次大会2023(福岡) 7月5日~6日「生コンセミナー」聴講(参加者32名)

その他、各種講習会への参加

(6)WG活動の推進

スライド改定WGを発足し、2月13日開催の理事会において中間報告を実施した。

(7)各種関係団体との定期懇談会開催

1)第三者試験機関との意見交換会実施(3月21日)

2)混和剤協会関東ブロックとの技術交流会実施(3月28日)

(8)協組品質管理監査結果

圧縮強度試験結果の推移

	'20	'21	'22	'23
改善勧告件数	0	2	1	1

*呼び強度比1.50以上で改善勧告

(9)東京都生コンクリート品質管理監査への対応状況

1)品質管理監査委員会 4回

2)品質管理監査対応 品質管理監査:2工場、査察:2工場、上・下期中間監査:4工場

(10)関東1区・東京都工組・共同試験場合同技術委員会

1)合同技術委員会 3回

2)技術研修会(10月19日開催)

(11)各種会議

1)技術委員会:3回、技術部会:7回、

ブロック技術部会:10回/ブロック

・各種情報提供、組合員工場からの報告及び技術対応方針決定
・登録販売店への説明(文書発信及び説明会開催)

2)合理化委員会 2回

3)東京生コンクリート卸協同組合との業務連絡会 10回

2. 2024年度技術委員会活動計画**(1)WG活動の推進**

スライド改定WG:2025年4月1日運用開始を目標に、説明会、PR活動を実施する。

(2)単位水量推定試験への対応について

ビデオによるPRを継続。また、データ収集の可否を確認し、状況によっては試験練りを計画する。

(3)各種講習会参加

1)JCI年次大会2024(松山)生コンセミナー (6月26・27日、参加予定者30名)

2)その他随時必要な講習会に参加

(4)各種関係団体との懇談会の開催(年1回を目標)

1)混和剤協会関東ブロック

2)第三者試験代行試験機関

(5)2024年度品質チェックシステム

立入検査は従来と同様に日本品質保証機構に委託。

検査方法は、通年・無通告を原則とする。

わが社の安全対策**株式会社大角**

当社は大正2年に建材商、大角商店として創業し今年で111年を迎えました。目黒通りに面して、近隣には大型スーパーがあり、車両や歩行者の往来が多くある地域です。

従業員の健康と安全を保ち、働きたい環境で常に業務に従事できるよう配慮するため今年度の工場方針として、労働災害、車両事故の撲滅を掲げ安全対策に努めております。

工場では日々多くの車両や機械が稼働しているため、安全対策が必要不可欠といえる環境です。

当社で行っている安全対策の内容をご紹介します。

1. 仕事に対する心構え

睡眠、食事、運動などを通して日々の健康管理をおろそかにせず、生活習慣を整えること。

だらしない服装、装備は、つまずき、転倒、巻き込み、ひっかけなどの危険を招くため、作業服、ヘルメット、安全靴、その他装備(安全帯、防塵メガネ等)は適切に装着する。

整理整頓は安全への足がかりであり、仕事はコミュニケーションをとりながら正確にして円滑に行う。

2. 構内作業

構内ではミキサ車、ダンプ車、バラ車、ショベル、ユンボの大型車両

の通行が頻繁なため、車両の動向に気を配り、車両の前後及び乗車中は特に注意する。

路面、床面、階段等が濡れていないか、油脂類等が漏れていないかを確認し、足元が滑らないよう注意して作業を行う。

3. 動力設備の作業

動力設備で作業する場合は、操作盤、配電盤の電源を切り、ブレーカーは必ず落とす。スイッチ、ブレーカーのある場所に「作業中であることを第三者に知らせる為の掲示」をする。作業終了後電源を入れる場合は、「作業に従事した全員が作業個所を離れていることと顔を見て確認」した後、電源を入れる。

声だけでは確認にならない。電源スイッチを入れる作業は原則として作業当事者が行い、「当事者の指示が無い限り第三者が電源を入れることを厳禁」とし、正常に作動したことを確認する。

4. 火気を使用する作業

ガス溶断、電気溶接機等火気を使用する場合は、付近に油脂類、可燃性のあるものを取り除き、安全防具を着用の上作業を行う。雨天時の作業は原則として行わない。

以上が当社における安全対策であります。従業員一人一人が安全意識を高め、快適に働ける環境を作ることが最も重要なことと思っております。

	(出荷数量)		(引合、成約、契残)	
	5月(実績)	6月(想定)	5月(実績)	前年比
大型	193,473 m ³	210,000 m ³	引合	207,317 m ³ 476.6%
小型	22,414 m ³	30,000 m ³	成約	172,791 m ³ 480.7%
計	215,886 m ³	240,000 m ³	契残	3,441,421 m ³ 71.8%